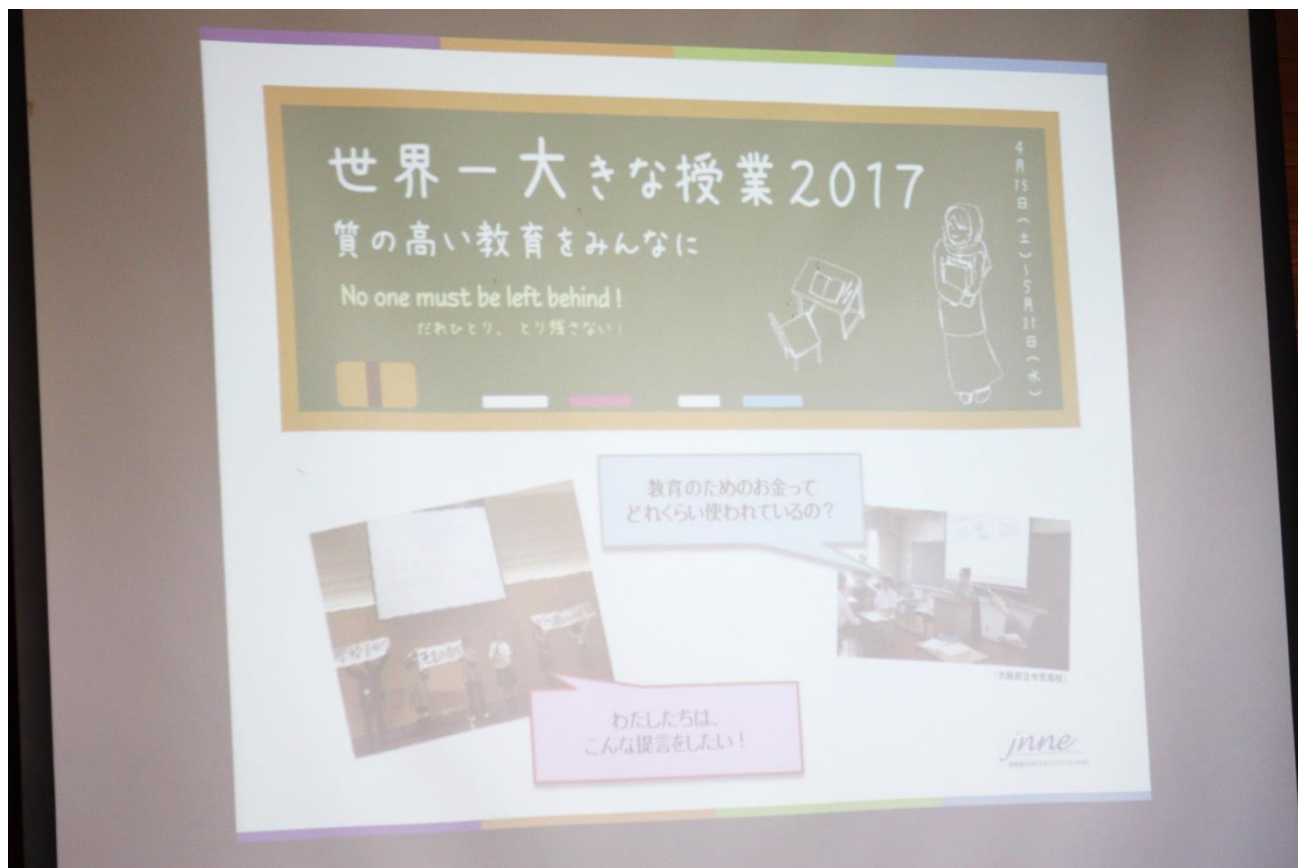


◆ 世界一大きな授業 in ミヤガク

5月20日(土)の3・4校時に、3年生対象の「世界一大きな授業」を実施しました。「世界一大きな授業」は「持続可能な開発目標」の「目標4＝教育目標」達成のためのグローバル・キャンペーンです。毎年、100か国以上から日本と世界中の子どもたちが参加し、教育の大切さを、同じ時期に考えようという地球規模のイベントです。質の高い教育をだれもが受けることができるようにと、自分たちにできることを考えました。



まず最初に「世界各国の言葉で『こんにちは』と挨拶をしてカードを受け取ります。「こんにちは。」「ボンジュール!」「アニョハセヨ」「ニーハオ」「ゲーテンターク」「Hello」など、思い思いの挨拶を交わして授業がスタートしました。





次に、「人の話を聴こう」「自分の意見を持つ」「『わからない』と『わかってほしい』は違う」など、今回の授業において、一人ひとりが主体的に何かを感じ取り、考え、話し合うことの大切さについて確認しました。



グループ分けでは、各自が声を出して積極的に活動する様子が見られました。主体的に動くことができていましたね。





一番盛り上がったのは、先生方による寸劇。お腹が痛くなった母親を助けるために、息子が学校の救急棚に置いてある薬を取りに行くという場面。先生方の熱演に一瞬爆笑が起こりましたが、その後の状況を見て皆、はっとさせられたようでした。母を助けようと薬を取りに学校へ走ったものの、机の上には、ラベルに「水」と「薬」と「毒」とアラビア語で書かれたペットボトルが3本置いてありましたが、息子役の先生には読めなかったからです。



生徒たちにも、3本の中から1本を選んで飲んでもらいましたが、普段考えもなかった「識字率」や「教育」「世界の子どもたちの置かれている現状」などについて、皆、いろいろと考えさせられたようです。





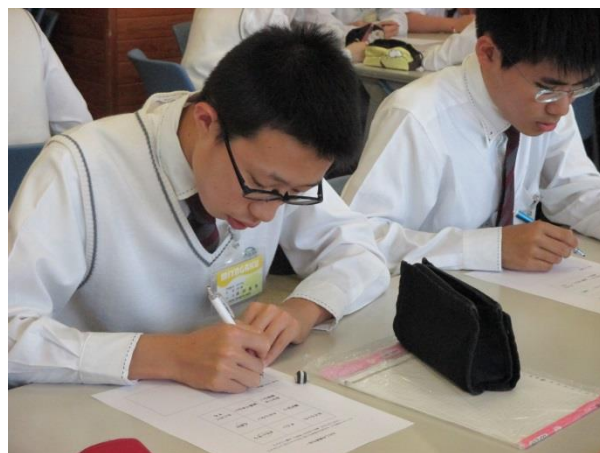
次に、教育支援に必要な金額、私たちが日常生活で使っているゲーム市場の金額、そして世界の軍事費の割合について話し合い、予想した後で、実際に紙テープにして割合を比べてみました。



次に、各班に9枚のカードが配付され、私たちが取るべき行動について優先順位を考える時間がありました。皆、意見を出し合いながら、各班の意見を集約していきました。



最後に、「私たちの政策提言」や感想をまとめました。



<参加後の感想より>

3年S組 山村実央さん

「世界一大きな授業 2017」を受けて、世界にはまだたくさんの課題があることがわかりました。その課題を解決するためには、私たち一人ひとりが世界のことに目を向けて、ちゃんと知ろうとしないといけないと思いました。今回の授業で、私は少し知ることができました。これからも、自分で調べたり、考えたりしていき、自分にできることを精一杯やろうと思います。また、無駄な経費を減らして、発展途上国の教育支援に充ててほしいです。本当に大切なことにお金を使ってほしいと思います。

3年S組 外山愛子さん

私たちが住んでいる日本では当たり前なことが国によっては違っていった。例えば、世界には学校に通えない人が多くいること。文字を読むことができない人もいる。小さな子どもたちが働いていること。それを知ったとき、大変驚いた。自分の国があらためて平和な国なのだと感じた。もっと工夫すれば1人や2人でも学校に行くことができるし、教育に力を入れれば文字を読むことができる人も増えるし、少し何かをするだけでも平和になっていくのではないかなと思う。貧富の差がなくなり、全ての国が平等になれば皆、幸せになれると思う。だから、募金活動などを街でよく見かけるが、それをスルーするのではなく、1円でもいいからお金を入れて、1人でも2人でも子どもが学校に行くことができるように積極的に協力していきたいと思った。

3年T組 高尾鐘円くん

世界中の子どもたちが学校に通えるようになるために、政府が25歳～59歳までの人から1日10円ずつ徴収して発展途上国の教育支援金にしてはどうだろうか。現在の日本政府は、海外への教育支援とは言っても日本に来る留学生などにほとんど使っていると言うことだったので、発展途上国の学校の支援金に充ててほしい。私は、自分たちはいい教育を受けているのに、たまに「学校に行きたくない」と言っていた自分に腹が立った。これからはしっかり授業を受けたいと思いました。また、募金などにも積極的に参加したいと思う。